

中小業者の声を41自治体に伝えよう

11回目の自治体訪問 始まる

兵庫県商工新聞

編集 兵商連新聞編集委員会
発行 兵庫県商工団体連合会
〒652-0811 神戸市兵庫区新開地4-4-12
☎ (078) 341-0563 (代)
FAX (078) 341-0885
http://www.hyoshoren.co.jp/
Email: info@hyoshoren.co.jp

2024年11月
第387号
〈部内資料〉



猪名川町 (10月18日)

参加者から、「市内商業活性化事業補助金は、市の窓口がなく
「国からの交付金
がおりてきたら、支援
を強めて欲しい」と参
加者から要請した。
▼三田市・10月9日/
三田市では「三田市
産業総合戦略」を策定
し、市内事業者の成
長・発展に向けた施策
を推進。昨年は「小規
模事業者物価高騰対策
助成金」を創設し、今
年も再度支給したなど
が話された。
参加者から、「物価
高騰で財布の紐が固く
なり、家族経営の商
売は売上が減ってい
る」「自治体の制度が
ない。物価高騰支援を
お願いしたい」「駅前
再開発で、今まで商売
をしていた小規模事業
者がテナントに入らな
いのではと心配してい

▼高砂市・10月8日/
災害時においての
国・県の各種補助金に、
市独自の上乘せも検
討したい。避難所につ
いては、着替えや授乳
スペースなどに使用で
きるテント型パーティ
ションを配備。「プラ
イバシーやジェンダー
に配慮したい」と。
「国からの交付金
がおりてきたら、支援
を強めて欲しい」と参

加者から要請した。
▼三田市・10月9日/
三田市では「三田市
産業総合戦略」を策定
し、市内事業者の成
長・発展に向けた施策
を推進。昨年は「小規
模事業者物価高騰対策
助成金」を創設し、今
年も再度支給したなど
が話された。



多可町 (10月9日)



伊丹市 (10月11日)

参加者から、「物価高騰で財布の紐が固くなり、家族経営の商売は売上が減っている」「自治体の制度がない。物価高騰支援をお願いしたい」「駅前再開発で、今まで商売をしていた小規模事業者がテナントに入らないのではと心配してい

る」「国保の相談に来た人に寄り添う相談をして欲しい」など要請。担当者から「給付金は国の交付金を活用している。動きがあれば支援策を検討する。市内業者にスムーズに支給できるようにするために民商とも懇談したい」と話された。

▼稲美町・10月10日/
物価高騰対策として、市民1人当たり3千円の地域振興商品券を送付している。また、1万円で1万1千円の

▼小野市・10月16日/
「1万円で1万5千円の買い物ができる」「らっきゃプレミアム商品券」を販売し、10月から利用が始まった。物価高騰対策としても喜んでいただいている。ゼロゼロ融資の返済は大変だとの声も聞いています。先端設備の導入に対し、市の支

▼加西市・10月16日/
高橋市長から、「ものづくりの町、企業あつての加西。加西市原油価格高騰対策支援金を1億円の補正を組み、10月15日から始めている。業務用の水道料金の減免の予算を組んだ。できる範囲で市としても努力したい」と話された。



加西市 (10月16日)

▼佐用町・10月17日/
担当者から「佐用町商工業者物価高騰対策支援金を創設し、4月15日〜6月28日迄に469人が申請、2345万円を支給した。住民も物価高騰の影響をうけている。住民税非課税世帯への10万円の支給もおこなっている。融資は、H29年から3年間の利子補給制度を創設。年間30件ほど使っていたらいい」と話された。

「官公需は地元入札にこだわっている。公契約条例の下、下請けにしないか現場の検査も行い、報告書をあげている。小規模事業者が価格転嫁できていないことも理解している。生産性向上、企業のデジタル化など各種補助金もある」と担当者から報告された。

おおさわ 芳清さんで県政を変えよう

11月17日投票開票【兵庫県知事選】



10月31日告示、11月17日投票開票で兵庫県知事選挙が始まりました。民商・兵商連も加入する「憲法が輝く兵庫県政をつくる会」は、医師のおおさわ芳清さんを知事候補に擁立し、選挙戦をたたかっています。

あなたの一票が県政を変えます。投票に行きましょう。

▼個人事業主において、自分や家族の働いた分を給料として支払う。「当然」と思われる方もいるかもしれないが、税法上経費として認められないのが所得税法第56条だ。民商・全商連として、「自家労賃を認めよ」と運動を続けてきた。しかし、この問題は未だ解決していない▼働き方も変わり、「一人ひとりが大切にされる」時代になってきたが、個人の尊厳が守られ、豊かにくらせるようになったのかと問うとそうではない。一部の大企業が富をたくわえ、物価高騰にあえぐ庶民との差は広がり続けている▼豊かさとは何か。自分が働いた分の賃金が保障される。お金の心配なく医療や介護が受けられる。学校に行ける。財布の中身を気にしなくても、食料品や日用品が購入できる。そして、ほんとする時間がある。自然災害においても、公の補償で、元の生活や生業が続けられる▼地域で商売を続けることが社会貢献につながっている。地域循環型の経済社会をつくることこそが、一人ひとりが大事にされる豊かさにつながるのではないかと考える。(N)





みんなSHOW横丁 皆で集まり、楽しもう



兵青協が11月30日(土)、12月1日(日)の10時〜20時に神戸のメリケンパークで開催する「みんなSHOW横丁2024」まで残り1ヵ月となりました。出店の最終申込状況は、84店舗の申込があ

り、うち民商会員の申込数は57店舗です。協賛の申込状況は協賛①(VIP席)が4枠、協賛②(B5チラシ裏面広告)は27社、協賛③(HP掲載)は2枠、協賛④(スタッフシャツ)は6枠が申し込まれています。協賛①(VIP席)、協賛③(HP掲載)、協賛④(スタッフシャツ)は6枠が



と、兵庫民商では、プーの会員の足を運んでくれるために、会員同士で声を掛け合っています。加古川・加古民商青年部では、みんなSHOW横丁について総会や機関会議、支部役員会等でPRしたり、ポス

んSHOW横丁の成功に向けて前田悠斗青年部長を中心に役員会で話し合い、北民商青年部で出店すること、名刺広告の協賛を集めることを決定。電話かけや事務所への来所者へ協力をお願いしたところ、快く協力してくれ、協賛を集めることができた。当日は多くの会員に足を運んでもらうために、会員同士で声を掛け合っています。

加古川・加古民商青年部では、みんなSHOW横丁について総会や機関会議、支部役員会等でPRしたり、ポス

平和と憲法を守ろう

破局の瀬戸際に平和の選択を

兵庫県原水協事務局長 梶本修史

核大国によって核兵器使用の威嚇が繰り返され、他方で、「核抑止力」の名で、新たな核兵器の開発・配備、軍備増強が規模にす

すめられ、「核の破局の瀬戸際」に立っています。石破内閣は、「核共有」や非核三原則の見直しなどを主張し、日本

の安全のためには

「核抑止」が必要と力説します。

兵庫県は、この危険な流れの中にあります。「防衛」の中核を担う陸上自衛隊の司令部が兵庫県に存在し、米軍と一体に日米共同軍事訓練を繰り返して

います。但馬地域では、米軍機の低空飛行訓練が常態化し、欠陥輸送機オスプレイまで

目撃されています。

年間2千回以上も出動するドクターヘリの航行空域と重なっているのに、兵庫県は飛行中止を求めようとしません。姫路港への米艦寄港に対して、港湾管理者の兵庫県は三度も許可し、安保条約がある以上、「特定の理由なしに拒否をする理由がない」と米軍艦の全面開放の立場まで表明しています。

沖繩県の米軍基地基地建設の強行のように地方自治の原則を否定する態度は認められませんが、核兵器積載艦艇



の入港を50年も拒否し続ける神戸港とは大違いです。

日本海に面するすべの府県が非核宣言を行い、北朝鮮、中国、

ロシアも含む6カ国81自治体による「北東アジア地域自治体連合」に加盟しています。その中で人口や予算規模の大きい兵庫県が、「連合」開催に名乗り上げ非核・平和の北東アジアづくりに貢献するべきです。

「戦争する国づくり」に手を貸すことなく、危険な流れを転換し、平和の準備をすすめる絶好の機会が、兵庫県知事選挙です。

私の商売ものがたり

NO.260

永富 宏美さん

(飲食)

高砂民商



お食事処「すず」は、地域の皆さんに愛される定食屋さんで、姫路市民会館前交差点の角

にあります。開業7年、母親とふたりで切り盛りしています。お客さんはサラリーマンが多く、「最近

は口コミを見て地元以外の人が来店してくれる」とうれしそうに話されています。

人気メニューは、エビフライ定食と唐揚げ定食。どの定食

リーズナブルな町の定食屋さん

でもリーズナブルな価格で提供し、ごはんおかわり一杯とドリンク無料がお店の魅力。「止まらない物価高騰とお米不足の影響で、いままでのサービスを維持するのが困難。値上げを考えると本当にしんどい」と悲痛な思いも話されましたが、できるだけ価格を据え置けるよう、やりくりしているそうです。

お食事処すず
姫路市綿町156
船越ビル1F
☎079-258-7291
【営業時間】11時～14時(定休日無)

民商には知り合いの紹介で入会。「帳面の付け方、税金のことや日常の些細な悩みも親身に聞いてくれ感謝です」と。

経営情報

ターやチラシを掲示板や店舗に貼ってもらい、会員問わず興味がある方に出店や協力の依頼をしました。

き受けてくれる会員を見つけてきました。兵商連は、みんなSHOW横丁成功に向けて、多くの会員が参加できるように、会員向けの抽選付きピラを作

ります。10月末完成で各民商に届けますので、多くの会員に配って参加を促してください。横丁の成功に向けて、民商全体で盛り上げていきたいと思います。

事務署からお尋ね文章が届いています。文末に「行政指導の責任者は事務署長です」という一文を記載しているのは行政指導文書です。行政指導に依るかは任意です。行政手続法には、応じないものに不利益を与えてはならないと定められています。お尋ね・呼び出しの相談は民商へ。

つながり広げ、学び合う 全国業者青年交流会



10月5～6日、岩手・花巻温泉で第17回全国業者青年交流会が開かれ、兵青協からは14人、全体で326人が集まりました。

5日は、岩手大学の齋藤徳美名誉教授の記念講演と北海学園大学の犬貝健二教授をコーディネーターにパネルディスカッション。夜は夕食をかねて名刺交換会。全国の仲間と交流を深めました。6日は9つに分かれて分散会。経営や事業承継、消費税インボイスなどを学びました。また、移動分科会では、花巻市の戦跡や宮沢賢治記念館を巡りました。

参加者からは「久しぶりに全国の仲間と商売の話などで盛り上がった」、「元気をもらった。11月の全青協総会に向けて部員を増やしていきたい」など感想が寄せられました。

編集後記

私たちのくらしと商売に直結する大切な選挙が続きます。真っ当にくらし人たちが人間らしい生活ができるとうごく当たり前の願いが実現する政治をめざし、大いにくらしと商売を語り合います。(H)